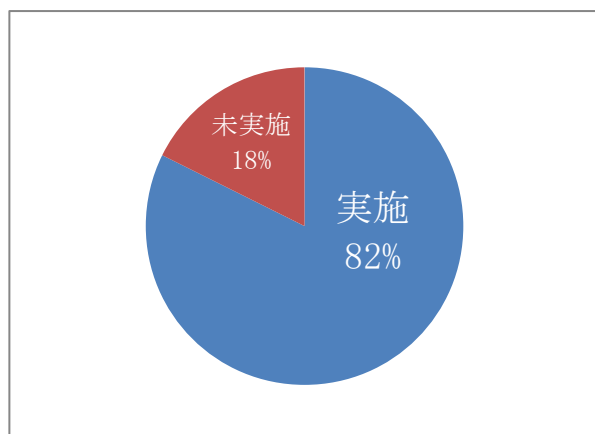


## 全国RYLA研究会 事前アンケート結果

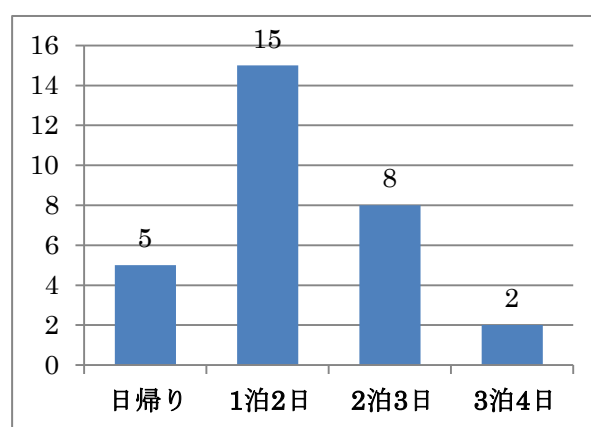
対象：全国34地区 実施：2014年11月17日～2015年1月31日

### ===== (1) RYLAの基礎データ =====

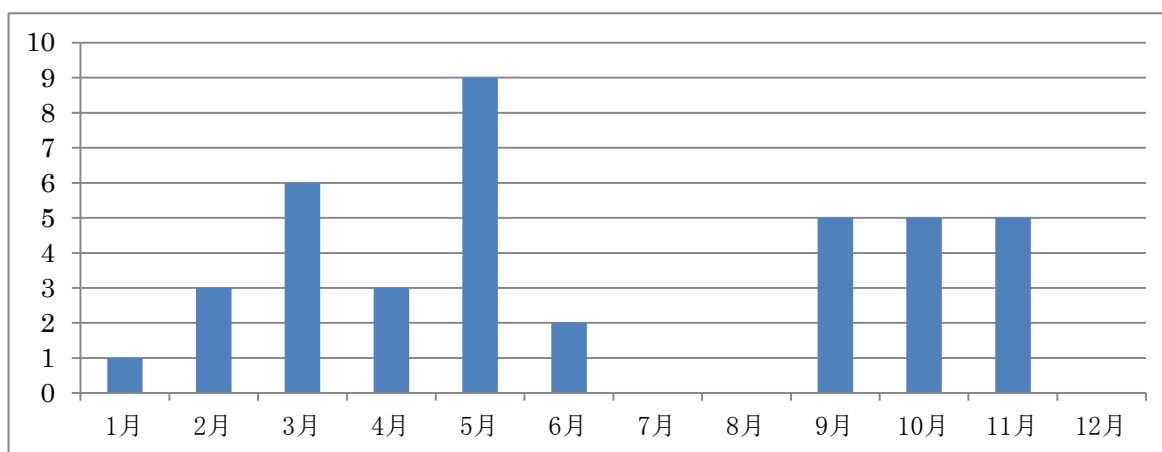
【RYLA実施状況】



【RYLA実施日数】



【RYLA開催月】



【費用負担】

|      |    |
|------|----|
| 参加者  | 8  |
| 地区   | 22 |
| クラブ  | 20 |
| 協賛企業 | 2  |

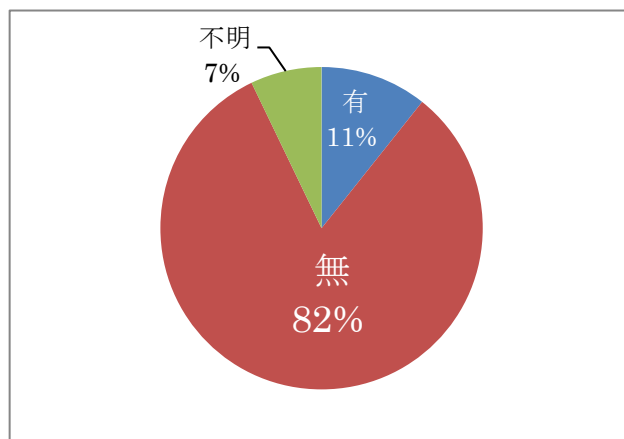
【加入保険】

|      |    |
|------|----|
| 障害   | 16 |
| セクハラ | 1  |
| イベント | 7  |
| その他  | 1  |

【外部講師】

|      |    |
|------|----|
| 専門家  | 23 |
| 大学教授 | 14 |
| 起業家  | 9  |
| その他  | 13 |

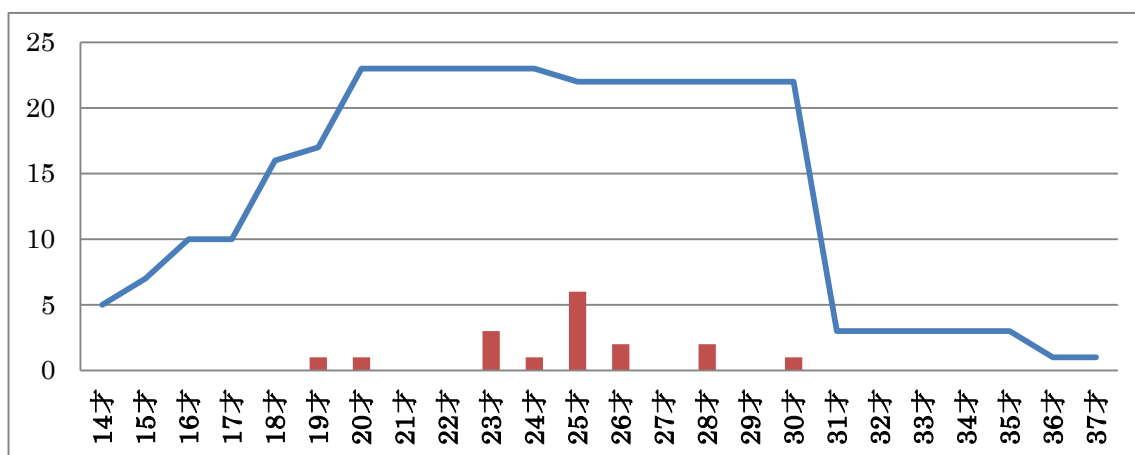
【ホームページ運用状況】



【各地区の過去2年間のテーマ】

- |                          |                      |
|--------------------------|----------------------|
| 「自然の恵みに感謝して生きる」          | 「震災復興に私たちのできること」     |
| 「水の問題から見えてくる、日本の事・世界の事」  | 「災害時のリーダーシップ」        |
| 「地域の資源・資産を知る・活かす・創る」     | 「トップはいかにあるべきか」       |
| 「家族愛挑戦！郷土の誇りを胸に」         | 「コミュニケーションの取り方」      |
| 「地域の為に私達は何が出来るか」         | 「"挑戦" 若い青少年だからできること」 |
| 「若者よ、飛び出せ世界へ」            | 「思いやりのある言葉を話そう」      |
| 「日本人としての誇りを持って生きる」       | 「私にとって教育とは何か」        |
| 「私たちのリーダーシップで世界に誇れる日本を！」 | 「キャリア教育—私の人生設計」      |
| 「平和と命」                   | 「社会人としてのマナー」         |
| 「次の世代にときめきを」             | 「ありがとう」              |

【募集年令分布 (青) / 参加者平均年齢 (赤)】



【募集活動協力者】

|              |    |
|--------------|----|
| ローターアクト      | 26 |
| 会員家族         | 17 |
| インターアクト      | 15 |
| RYLArian     | 14 |
| 民間企業         | 14 |
| 大学           | 9  |
| ローテックス       | 7  |
| 役所・NPO       | 3  |
| 銀行・農協        | 3  |
| 米山奨学生        | 1  |
| 新聞・雑誌・タウンページ | 2  |
| 青年会議所        | 1  |

【募集告知方法】

|           |    |
|-----------|----|
| ガバナー月信    | 16 |
| クラブ訪問     | 14 |
| クラブへの案内配信 | 13 |
| 地区ホームページ  | 8  |
| その他       | 19 |

(具体例) 新聞広報、会長幹事会・地区大会・ガバナー公式訪問にて案内、他の青少年プログラムへの勧誘、クチコミ紹介

【RYLAと地域社会の関係】

「将来のリーダーに相応しい若者を各クラブに推薦してもらうことで、ロータリー理念の理解ならびに社会のリーダーの育成に繋がっていききたい。」

「地域の企業や大学・専門学校に所属しているホープを見出し、セミナーだけではなくRYLA学友会を通して、社会奉仕やロータリーの主催するIM等に参加してもらい、ロータリアンと共に学べる場を提供。より良き若き人材の育成は地域社会を元気にしていく。」

「地域との交流を深める中に、お互いに活性化となる。」

「地域社会に関係する身近で具体的なテーマを提示することで、地域交流、地域発展に貢献することも視野に入れたい。」

「地区内持ち回りなので年1回の開催では地域社会との関係は希薄。RYLA、RA、IAなど組織的に考える必要がある。」

「まず、第一にロータリークラブというものをもっと知っていただきたい。」

「将来地域リーダーとして活躍できる資質を身に付ける目的でセミナーを開催している。受講生が、ローターアクトそしてロータリアンという段階を経ればより良いが、地区委員会としては受講生自身の質を高め、地域に貢献できるような青少年育成活動を行っていききたい。」

「二泊三日のセミナーを地域社会と結びつけるのはかなり難しい。効果的で意義深い、インパクトのある研修を行い、受講生に理想的な社会人になってもらうしかないと考え

ている。他地域や他国で行っている活動を是非参考にしたい。」

「地域と切り離しては考えられない。セミナーで学んだ事が一つでも生かされるよう、自ら発信する事が大切であり、その事をRYLAに返して、更に広く深くなるような継続性が必要。」

「地域社会のリーダーを育成するセミナーなので、常に地域社会のニーズを把握し、地域社会に根差した活動ができるよう指導している。また、地域社会に将来リーダーになるような人材を推薦するよう依頼している。」

「若者を支援（RYLA活動）することで地域が活性化する礎になることが望ましい」

「ロータリーの青少年育成を地域に広報する手段として、また参加した研修生が地域で若い世代のリーダーとして活躍できるようなRYLAにする。」

「各クラブの地域との関係において、良い人

材を紹介してほしい。」

「一般のロータリアンでもRYLAの事はよく知らない。まして社会との関係は難しく、知っているロータリアンが吹聴しなければと思っている。」

「地区で委員も募集するが、一部のクラブしか参加しない。興味がないというクラブもある。地区全体で作らないと意味がない。」

「ロータリアンの家族や会社後継者等に参加してもらえることによって、ロータリーの理解が広まると共に将来のロータリアンになるきっかけになる。」

「地域社会の理解を深めるために、地元から体験学習の講師を呼んでいる。」

「地域社会におけるRYLAの認知度、評価をさらに高める努力をし、ロータリー活動への理解を深めるためのイベントの一つとして考えてゆくべき。」

### 【RYLArian 活動状況】

|                |    |
|----------------|----|
| ローターアクト入会      | 14 |
| 集い             | 9  |
| Facebook 等のSNS | 8  |
| ロータリークラブ入会     | 7  |
| 青少年交換に応募       | 4  |
| 財団奨学生に応募       | 1  |
| GSE に応募        | 1  |
| その他            | 3  |

(具体例) RYLA学友会、地区大会での発表、企業新人研修として活用

### 【セミナー後の支援活動】

|           |    |
|-----------|----|
| 勉強会・親睦会   | 12 |
| RYLA同窓会名簿 | 9  |
| クラブ卓話実施   | 15 |
| 合同地区RYLAへ | 2  |
| 国際RYLAへ推薦 | 8  |

### 【RYLArian への期待】

|            |    |
|------------|----|
| 全国RYLAセミナー | 15 |
| 国際RYLAへの推薦 | 14 |
| 海外のエリアRYLA | 7  |

## ===== (2) 各地区のビジョン =====

「実施期間2年間のため、第一にRYLA学友の組織作りをと考えている。」

「東日本大震災を被災した2530地区(福島)の復興には若者の地元への定着を可能とする環境整備が必要である。インフラの整備の為の行政等への働きかけは当然として、若者世代への「キャリア教育」の浸透をはかり、若者が必要とされているというアピールを継続していきたい。」

「① RYLA学友が将来のセミナーで、講師やインストラクターとして活躍できるように支援をしていきたい。② 近隣の地区との合同のセミナー開催。③ セミナーだけではなく、ロータリー活動に協同しての学びの場を広げていきたい。」

「単年度で担当クラブが変わるので各主催クラブがそれぞれ独自に企画・検討の上実施している。」

「ロータリーの目的の第4に「世界ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和、を推進すること」が奨励されている。現在、各地区で毎年受け入れている各国の米山記念奨学生を交え、日本との歴史認識の違いを理解し合いながら久遠の平和に向かつての、若者としての長期的建設的な意見を出してもらおう。特に中国、韓国の奨学生との間で、日本との歴史認識の違いをどう乗り越えていくかということについて、若者に考えてもらおう。これが世界平和に向けての第一歩であるように思う。」

「残念ながら単年度で開催地が変わり、人も代わる現状では長期ビジョンは持てない。開催することに追われ、中・長期的なビジョンを持つに至っていない。」

「D2650では、地区委員会が100%企画・立案・実施を行っているが、他地区では、クラブ主催の持ち回り制にしたり、初級・上級に分けて開催したりしているところもある。私

どもの地区は、4府県「福井・滋賀・京都・奈良」に97クラブあり、それぞれの地域の特色を生かして地区委員会と各クラブが協力し合って共同開催出来ればと考えている。\*他地区のセミナーにも参加できる体制が出来ればよいと思う。\*国際RYLAがあるように、全日本RYLAの開催が出来れば良い。」

「中期的には座学中心に研修内容を向上させていきたい。2660地区は、春は初級・秋は上級と年二回実施しているので、特に上級のセミナーはロータリアンが学んでも意義のあるものにしていきたい。長期的には受講生がOBとして後輩を指導するようになり、やがて若手ロータリアンになってもらえるようにしたい。(当地区ではチームRYLAとして既に12~3名が活動中。)」

「RYLAについての意識を高めた上で、地域と共に生き、世界に目を向けられる人材の育成と共に成長するためのリーダーの育成。」

「今後とも優秀な人材を確保して、充実したRYLAを開催したい。」

「青少年への支援は、今後力を入れていきたい。」

「RYLAを通して、ロータリーに対しての理解を深め、次世代のロータリアンとして育成することを最終目的とする。」

「今年5月平戸RC主催の開催で36回目。毎年2月頃から2年先の開催クラブを決める。最近では地区の青少年リーダー養成事業としての各クラブの理解も深まってきている。ローターアクトの協力も頼もしい。中・長期ビジョンということではなく、地区内のクラブが一度はRYLA開催クラブを経験してもらうことが一番の目標。」

「RYLArianからロータリークラブ入会までの道のりを確立したい。現在1泊2日を2泊3日にて開催したい。」

「今年度はガバナー方針により、岩手県宮古市において防災をテーマとして研修会を実施するが、近くの間所での研修会も考えている。費用が大きくなると募集が困難になる。」

「地区全体で参加取組が必要。」

「次年度は是非開催したいと思っている。」

「当地区では先輩方が築いてきた自己啓発プログラムによって、中高生から大学社会人による幅広い交流によって、新しい自分と社会、世界を構築するきっかけとなるプログラムになりつつある。特に昨年から導入した、

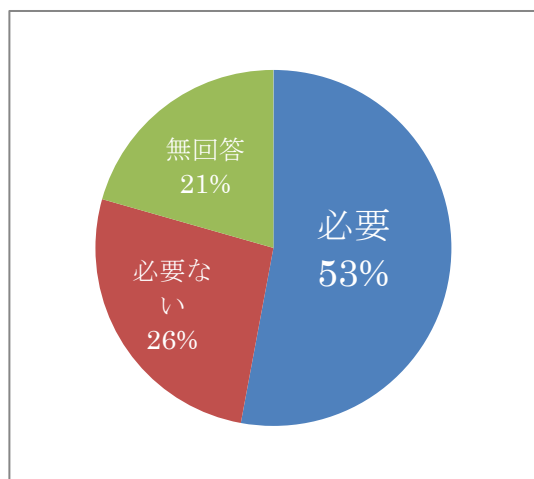
オリエンテーリングはグループ形成に有効なプログラムになる。」

「海外経験のある講師も入れてグローバルな感性を育てていきたい。同時に自分の生まれた地域の再発見の意識を高めていきたい。」

「① 地区の特徴を活かした、独自性のある企画を立てる。②インターアクト、ローターアクト、米山奨学生等と連携を取り、参加型の企画とする。③研修生が研修後も、横の繋がりを持ち、地域の次のリーダーとして活躍するよう応援する。」

===== (3) 全国RYLA研究会について =====

【全国RYLA事務局】 回答 34 地区

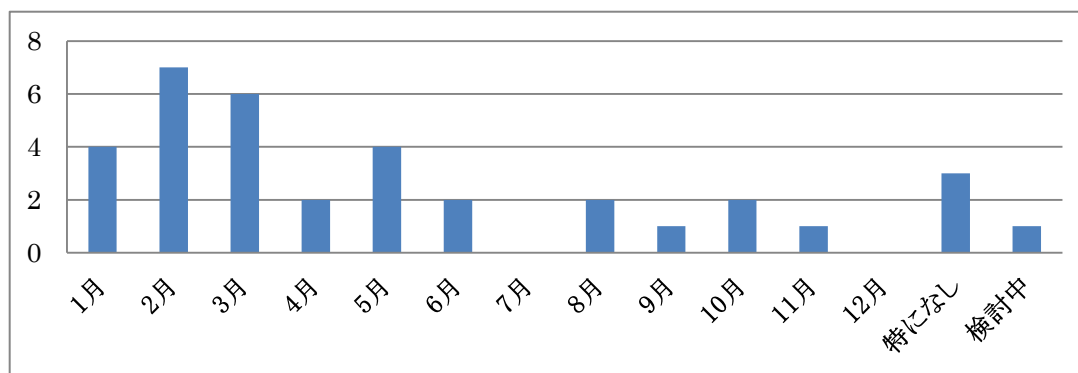


【事務局の業務内容】 回答 34 地区

|                |    |
|----------------|----|
| 地区RYLA委員長名簿    | 14 |
| 日本RYLAの歴史編集    | 15 |
| RYLARIAN 組織の登録 | 10 |
| ホームページ作成と維持    | 16 |
| 内外のRYLA情報配信    | 18 |
| その他            | 4  |

(具体例) 各地区RYLAセミナーの案内(募集、開催日時・プログラム)及び報告、地区レベルのRYLAマニュアル

【全国RYLA研究会 希望開催時期】 回答 34 地区



【実施すべき事業】 回答 34 地区

|                 |    |
|-----------------|----|
| 全国RYLA研究会       | 24 |
| 全国規模のRYLAセミナー   | 12 |
| エリアRYLAセミナー     | 5  |
| 国際RYLA(RI主催)の誘致 | 5  |
| その他             | 2  |

(具体例) 各地区RYLAセミナーのプログラム等の情報、アジア・オセアニアエリアのRYLAセミナー、情報交換のみ

【希望開催場所】

|              |    |
|--------------|----|
| 国立オリンピックセンター | 10 |
| ホテル          | 8  |
| 交通の便が良いところ   | 1  |
| 東京以外の体育館完備施設 | 1  |
| 地方でもやってほしい   | 1  |
| 特になし         | 3  |

【今後研究会で取り上げるべきテーマ】

「RYLAの理念・目的」  
 「RYLAの全国普及」  
 「他の奉仕(国際、社会奉仕等)との連携」  
 「予算減少の中での開催の意義・目的の再構築」  
 「セミナーを充実させるには」  
 「他地区でも依頼できる講師の紹介」

「RYLArian へのフォローや情報交換」  
 「各地区での開催状況及び報告」  
 「成功を収めている地区の先進事例」  
 「ユニークなプログラム紹介」  
 「海外のRYLAの動きや具体的な研修内容」  
 「国際RYLAに関して」

(その他の意見) 「とにかく勉強したいが、参考材料や情報が少なすぎる! HP を見てもあまり参考になるようなものは国内外で乏しい。当地区は他の NPO 団体のセミナーなども受け、交流をはかっているが、方向性が正しいのかどうか迷っている。」

— 第7回全国RYLA研究会 —  
 アンケート作成・集計担当:  
 大会副委員長 御手洗 美智子 大会実行委員 種谷 清周  
 発行: 2015年3月22日

